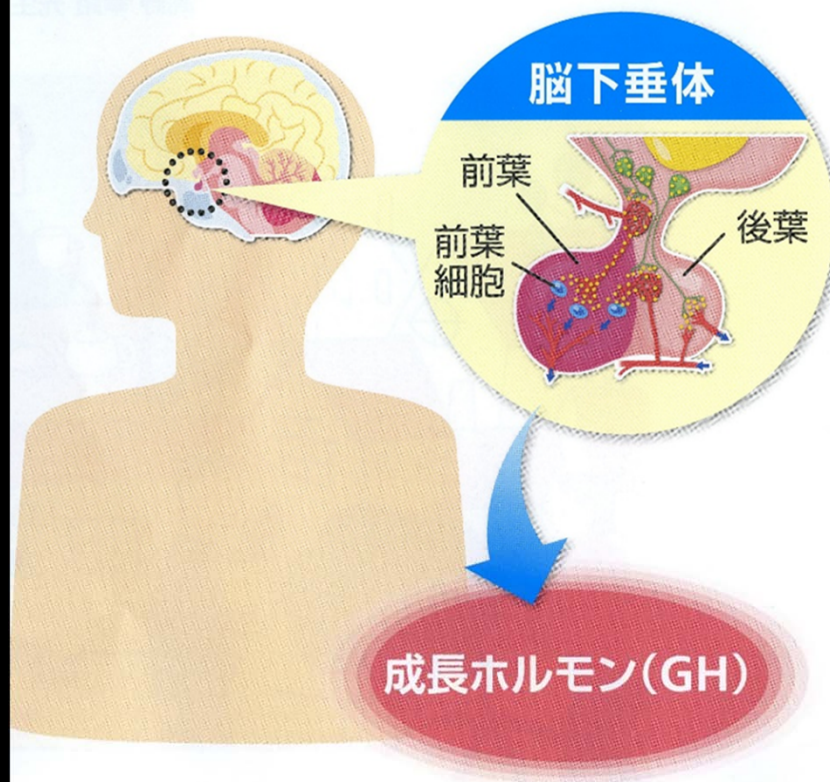


成人成長ホルモン分泌不全症

成長ホルモンは、 もともと身体にある物質です



成人成長ホルモン分泌不全症 — 困ること —

● 生命予後の悪化

● 意欲の低下
● 情緒不安定
● 疲れやすい

● 心血管系疾患
(狭心症、心筋梗塞、
脳梗塞など)になる
リスクの増加

● 肝機能障害
(脂肪肝・肝硬変)

● 体脂肪の増加

● 筋肉量の減少

● 骨の量の減少

成長ホルモン補充療法により 期待される効果

● 生命予後の改善

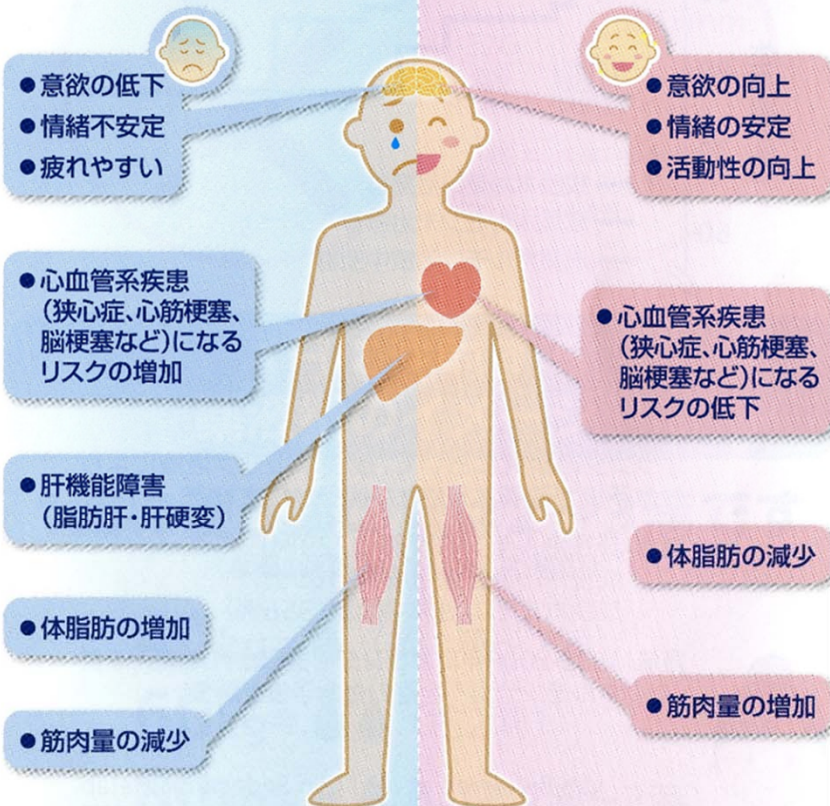
● 意欲の向上
● 情緒の安定
● 活動性の向上

● 心血管系疾患
(狭心症、心筋梗塞、
脳梗塞など)になる
リスクの低下

● 体脂肪の減少

● 筋肉量の増加

● 骨の量の増加



思い当たることはありませんか？

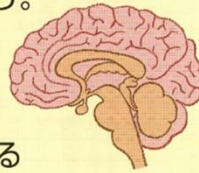
か すい たい
**下垂体の病気、
頭部のけがなどで治療中の方へ**

■監修：浜松医科大学 第二内科 講師 沖 隆 先生

当てはまる項目にチェックしましょう。

A.

- ☐ 下垂体や脳の腫瘍が原因で、
検査をしたり手術や
放射線治療を受けたことがある
- ☐ 頭部に重いけがを負ったことや、
くも膜下出血をおこした経験がある
- ☐ 子どものころに、成長ホルモン分泌
不全性低身長症と診断されたことがある
- ☐ 出産の時、大量の出血があったり、
出産後体調不良が続いている



B.

- ☐ 疲れやすい
- ☐ 気分が落ち込む
- ☐ 集中力が続かない
- ☐ 健診などで、コレステロールが
高いといわれた
- ☐ 太ってきた（とくにお腹のまわり）
- ☐ 性欲が減退している



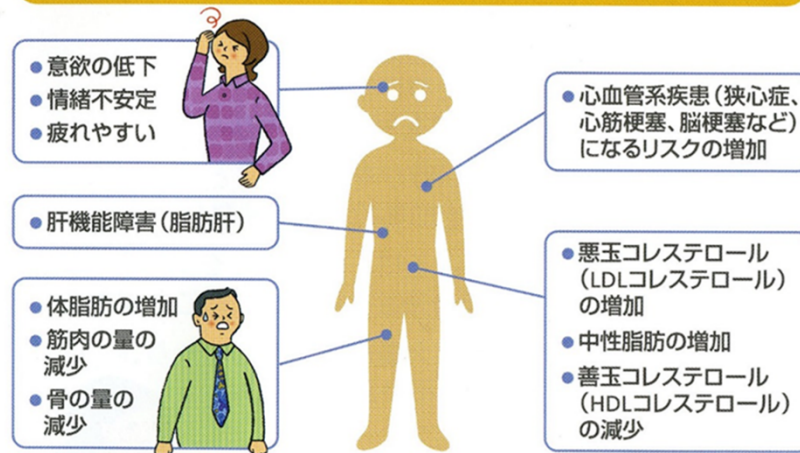
AとBで、それぞれ1項目以上心当たりがある方は…



それは、成長ホルモン分泌不全症の 症状かもしれません！

人間の頭部にある下垂体から分泌される成長ホルモンが不足すると、心身ともにさまざまな症状があらわれます。これを成長ホルモン分泌不全症といいます。

成人成長ホルモン分泌不全症の症状はさまざま



成人成長ホルモン分泌不全の主な原因

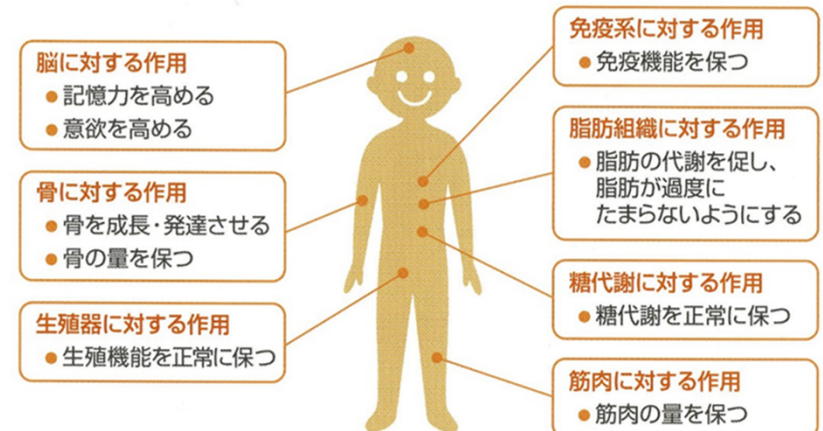
成長ホルモンは下垂体から分泌されるため、多くは下垂体の障害が分泌不全の原因となります。また、原因が不明の場合もあります。

- 下垂体やその近傍の腫瘍
- 下垂体やその近傍の手術
- 頭部への放射線治療
- 重度の頭部への外傷
- くも膜下出血
- 原因不明
- 下垂体の炎症
- シーハン症候群（出産、分娩に伴う大量出血によって引き起こされる下垂体機能低下症）
- 出生時に逆子や仮死状態などが原因で起こる下垂体障害

成長ホルモンは、一生にわたって さまざまなはたらきをする重要なホルモンです

成長ホルモンは、脳の下垂体から分泌されるホルモンの一種です。「成長」という名前がついていますが、このホルモンのはたらきは成長に関するものだけではありません。人間の一生にわたって、体のいろいろな器官にはたらきかける、重要なホルモンなのです。

多岐にわたる成長ホルモンのはたらき



成長ホルモンが分泌されているか調べるには

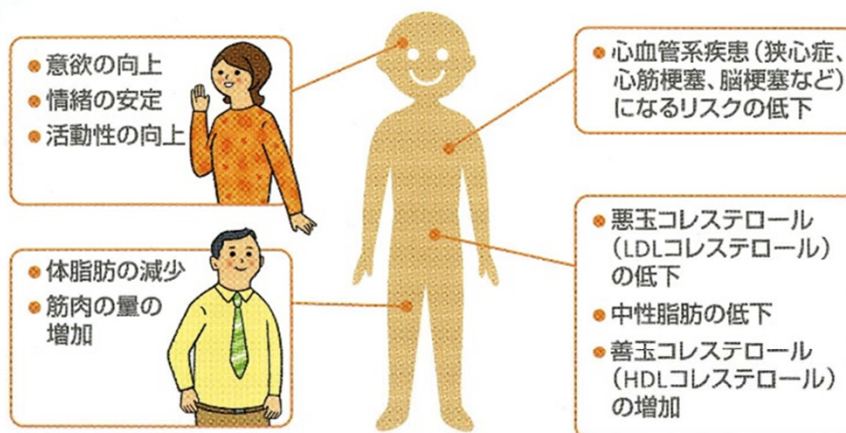
まずは専門医（内分泌内科、内分泌科）を受診しましょう。成長ホルモンの分泌不全が疑われた場合には、成長ホルモンが分泌されているかどうかを調べる「成長ホルモン分泌刺激試験」を行います。

この検査により、治療が必要な成人成長ホルモン分泌不全症と診断された場合は、成長ホルモン補充療法を開始できます。



成長ホルモン補充療法を行うことにより 心身のさまざまな症状の改善が期待できます

成長ホルモン補充療法により期待される効果



成長ホルモン補充療法の実際

成長ホルモン補充療法は、毎日夜に定められた量の成長ホルモンを注射により補います。注射器は、成長ホルモンの薬剤があらかじめセットされており、針が細くて短い、痛みが少ないものが開発されています。



「成長ホルモン分泌不全症では？」と思ったら、
ぜひ一度医師に相談しましょう！

診断 このような患者さんがAGHDと診断されます

① 小児期に発症し成長障害を伴う

② 自覚症状^{※1}、身体症状^{※2}を伴う

※1: 易疲労感、スタミナ低下、集中力低下、気力低下、うつ状態、性欲低下など。

※2: 皮膚の乾燥(と菲薄化)、体毛の柔軟化、体脂肪(内臓脂肪)の増加、ウエスト/ヒップ比の増加、除脂肪体重の低下、骨量の低下、筋力低下など。

③ 頭蓋内の病気を合併している、かかったこと・治療したことがある
または周産期に異常を起こしたことがある

左記①②③の1つ以上を満たす

血清(血漿)IGF-I[※]値が基準値より低値

※IGF-Iはインスリン様成長因子というホルモンで体内における成長ホルモンの生物学的作用の指標となります。主に肝臓由来です。

GHを含めた複数の下垂体ホルモンの分泌不全

2種類以上のGH分泌刺激試験

1種類以上のGH分泌刺激試験

AGHDの疑い

GH分泌刺激試験
(リコンビナントGH)

重症

中等症

インスリン負荷試験
アルギニン負荷試験
グルカゴン負荷試験

1.8ng/mL以下

3ng/mL以下

GHRP-2負荷試験

9ng/mL以下

※

※: 重症型以外の成人GH分泌不全症を診断できるGHRP-2負荷試験の血清(血漿) GH基準値はまだ定まっていません。

重症 AGHD

中等症 AGHD

成長ホルモン補充療法の適応

治療へ